

学校法人 内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 261 号
(6 月)
2022

幼児教育の具体的な学びの姿

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

幼児期における教育・保育内容が、一段と質の向上を目指し展開しております。その一つ、幼保小の架け橋プログラムの促進が注視されます。令和五年から五歳児と小学校一年六歳児の教育内容が「架け橋期」として、統一した教育指導要領のもとに、将来必要とされる資質や能力が身に付けられる生活基盤や学びの姿を目標として実施されることになっております。

さて、ウイズコロナ時代を迎え三密回避を徹底するなか、当園でのお預かりする子ども達は、例年に劣らず活発でエネルギーが溢れ遊びや活動を通して園生活を満喫しております。本稿では、架け橋

プログラムを想定した、主に四歳・五歳児の活動に対する発達・学びの姿を述べたいと思います。

さて、その姿ですが一般的な発達の一つの目安としてお考えいただくことを前提とします。

先ず四歳児・幼稚園年中組ですが、特にこの時期の発達は自発性・意欲・自己コントロール力・我慢する力・人に対する思いやり等が少しずつ成長する大切な時と云われます。生活力として、トイレ、着脱、洗顔や手洗いの習慣づけ、そしてお箸を使い食事ができる。運動面として、歩行がしつかりしてきて一時間位の散歩、十数メートルの全力疾走可能。友達関係、社会性として、色々な友達と交わ

り、ルールのある遊びが出来る。ごっこ遊びを楽しむ、やり取りを深める。「○○貸して」「○○しよるか」等いえる様になる。いたずら等注意されて止めることも出来る。そして自分が経験したり面白かったことなど話したり、質問に自分なりの言葉で答えられるようになる。四歳児は、ますます進んで身に付く社会的自立の育ち、一人一人に芽吹いた「やってみたい」「知りたい」といった意欲をたくましく育てていくことが大切であると捉えております。

次に年長組の五歳児ですが、小学校義務教育に接続する学びの姿、学習において大きく成長する可能性を切り開く育ちの大事な関わりの時期です。日常的に豊かな直接そして具体的な遊びや体験活動を通して基礎的な知識技能や言語能力を学びとして身に付けつつ、子どもの主体性を伸ばさせていくことが保育のねらいです。例えば友達との関わりが一層深められ自分のプライドや競争心も発達して、頑張る力・最後までやり抜く力や粘り強さを経験しながら、協調性・適応力・創造性を身に付けていきます。生活力としては、洗

顔、歯磨き、着衣・着脱、食事など身の回りのことが自分で出来るようになります。運動面は、片足飛びやスキップ、縄跳びをしたり、ボールを投げたり受け止めたりすることが出来るようになったり、また色々な道具や遊具を使い工夫して遊べるようになり、長距離を歩ける体力が育つこと等を目標とします。

この時期は、発達心理学者のエリクソンは、幼児期後期と分類して色々なことに興味を示し何でも挑戦しますが失敗もあり、親に注意され、これはやってはいけないだろうと思いつつも積極的に勝ち目的を達成する体験が、自分がそれをした理由が分かり、活動目的を持てるようになると解説しております。

以上に加えて園としては、個別的最適な学び、協働的な学び、主体的で対話的深い学びとなる環境を重視し、幼稚園教育要領の五領域の育つ学び、修了までに具体的に育ってほしい十の姿を、個人の成長の記録として評価記述できることを念頭にカリキュラム・マネジメントを強化しております。

今年度の運営方針補説

園長 坂本 信行

今年度の運営方針については、ふたば会総会資料と一緒に保護者のご家庭に配布しました。コロナ禍で保護者の皆様方に対し、対面での説明ができない状態が続いています。今回の園報では、当園は一斉活動と共に好きな遊びを重視していますので、そのことについて説明します。

幼児教育の歴史

日本の幼児教育の歴史を概観しますと、一八四〇年ドイツでフレーベルが「遊びを通して子どもの想像力を伸ばす」幼児教育を始めます。その流れから日本でも一八七六年（明治九年）に東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）付属幼稚園が創設されます。

現在の日本では、「幼稚園は遊びが学び」と捉え、遊びを重視しています。現在と書いたのは、過去には「遊び」だけの教育の不満から一八八一年「読み、書き、算盤」が幼児教育に採り入れられました。明治二十二年幼稚園改革が

行われ、再度「遊び」を通しての「学び」になります。昭和十年台に倉橋惣三氏によって、フレーベル理論にアメリカの新教育理論が加えられ「誘導保育」として遊びによる学びが充実されます。戦後、幼稚園は学校教育法に位置付けられ、教育要領もほぼ十年毎に改訂されましたが、遊びが学びの流れは変わりませんでした。

本園の歴史

本園は、明治三十七年盛岡保育会としてスタートしました。創立者の一人長岡栄子氏は岩手県立女学校教諭で盛岡にも幼稚園が必要であるとの考えからキリスト教婦人矯風会の事業として盛岡保育会を始めました。長岡氏は、お茶の水女子師範学校在学中付属幼稚園教生としてフレーベルの教育法を学んでいます。その後、明治四十年宣教師ミセス・タッピング氏が引き継ぎ盛岡幼稚園として認可されました。

タッピング氏はアメリカの大学

を卒業後ドイツに留学し音楽と幼児教育を学びます。日本には明治二十六年にご夫婦で来朝し、タッピング婦人は東京で保母養成所を始めます（本園ホームページ・園のこれまでの歩み）や「九十周年記念誌（参照）」このように本園は創立以来遊びを重視しています。

遊びと保育者の関わり

遊びといっても、自分の好きな遊び、グループでの遊び、クラス全員での遊びなどいろいろあります。それらの遊びが学びにつながるためには保育教諭の関わりが重要になります。したがって、本園の職員の研修テーマは、毎年遊びが学びにつながるような職員の関わりを中心に取り組んでいます。

今年度の運営方針と遊び

運営方針を行き渡らせるためには、園児にどう呼びかけ、職員や保護者に対してどう説明するかそれぞれ対応を考えなければなりません。教育の目的は、「知・徳・体」の調和ある人間の育成を目指していますが、私達は乳幼児を対象にしていますので、その基礎の部分を担当しています。したがって、園児に対しては、「体」では「食育」も含め、「早寝早起き朝ごはん」

を呼びかけ、「徳」については「あいさつ・ありがとう」を呼びかけ、「知」については「はかせ」で具体的な行動で呼びかけています。「はかせ」とは、一人一人の子どもの興味や関心や好きな事に意欲的に挑戦する子を目指しています。そして、遊びや一斉活動を通して「体」では健康や体力・粘り強さ等を育み、「徳」では人と関わる力である協調性とか社会性や会話を育み、「知」では、自主性とか創意工夫、意欲等を育もうとしています。

これらのことを園の特色を活かしながら保護者の皆様方と一緒に取り組んでいきたいです。



フルーツバスケット（Bクラス）

子どもの遊び・生活から

みんなと一緒だから

Aクラス担任 村松 千尋

給食の時間、「おかわりください！」の元気な声に、配膳された分でお腹いっぱいになっていた昨年を思い返し、大きくなったのだな、と嬉しく思う今日この頃です。

遊びも活発になり、鉄棒で逆上がりを練習する子、側転に挑戦する子、友達と一緒に氷鬼をする子など、汗をかきながら体を動かして遊んでいます。最近では、クラスみんなで『猛獣狩り』のゲームを楽しんでいて、先日の保育参観では、保護者の方にもその様子をご覧いただきました。お題で出された動物が二文字なら二人グループ、四文字なら四人グループ、というようにグループを作って遊ぶゲームですが、参観当日は「エリマキトカゲ」の難題に「何文字!」「人数が足りない!」など、ハラハラしつつ、みんなで協力して無事クリア!先生が手助けしなくても自分達で数を数えたり、人数調整をしたりする姿もあって、年長児と

しての成長を感じる時間でした。

子ども達にとって最後の園生活となる一年。一人一人が輝き、『みんなと一緒だから』こそできる経験を重ねていきたいと思います。

「頑張る!」気持ちを大切に:

Bクラス担任 瀧山 茉保

「ピンクバッチになった!」と一つ大きくなったことをとても喜んで、張り切って過ごしていた4月。2か月経った今でも、その気持ちは変わらず、さらに大きくなっています。「Bさんだから、苦手な食べ物も食べるよ!」等



ダンスを教えてあげるね♪

日々の生活の中で挑戦して頑張る糧になっています。そして、頑張った後に見せてくれる満面の笑顔に、挑戦出来たこと、頑張れたことが子ども達にとって自信につながり、次の挑戦への意欲になっているなど感じています。園では真ん中の学年として、様々な刺激を受けて過ごしています。Aクラスの色水作りを見て、色水を作ったり、雲梯や登り棒に挑戦したりしています。Cクラスには一つ大きなお兄さん・お姉さんとして、折り紙の折り方を教えたり、一緒に遊んだりしています。優しく接してもらった経験を、今度は自分たちが優しくする側になって接している姿があり、成長を感じている場面でもあります。

今後も「できた!」や「頑張った!」の声を大切にしながら、日々成長していく子ども達の姿を支えて見守っていききたいと思います。

仲良くなろうね!

C1クラス担任 竹岡 真美

家庭、保育園、いちごクラス:それぞれの環境からCクラスに集まった4月。そこから一人ひとり

のペースで少しずつ慣れ、毎日元気に遊んでいる子ども達です。

一緒に過ごす中で友達の名前も分かってきて、朝、「先生、○○ちゃん来たよ!」と教えてくれたり、遊びの中で呼び合うことも増えてきました。また、お休みしていた子が復帰すると「○○くん、元気になって良かったね」と登園したことを喜んだり、怪我の手当てを受けている子を心配して「お薬買ってきたよ」と薬に見立てたブロックを渡してくれる子もいて、子ども達の優しい気持ちに嬉しくなります。これからも一緒にたくさん遊び、楽しい時間を過ごしながら友達ともっと仲良くなっていけたらいいなと思っています。



おんなじ“おうち”

Cクラスの一年を通して、いろいろなことを『自分でできた!』という自信や、のびのび遊んで『幼稚園楽しい!』という気持ちを積み重ねながらみんなで大きくなっているように近くで支えていきたいと思っています。

日々の育ち

いちごクラス担任 中村 真子

新しい環境にも慣れ、子ども達が自分の思いも表出しながらのびのびと過ごしている姿に、私たちも刺激を受けながら過ごしている今日この頃です。

戸外で遊ぶことが大好きな子どもたちは、毎日たくさんのお見があり、虫を見つけたことを嬉しそうに教えてくれたり、高いところまで登れたことを自信満々に教えてくれたり、全身で喜びを伝えてくれる姿が愛おしいと感じています。生活面では、少しずつではありますが、靴下やズボンの裏返しを直せるようになってきています。できなかったことができるようになる場面が増え、成長を感じられて嬉しく思っているところで。たくさんさんの「できた」を共に喜び合いながら過ごしていきたい

と思います。

コロナ禍でマスク越しの関わりが、表情が伝わっていないか不安になるときもあります。喜怒哀楽いろいろな気持ちを共有し合いながら、これからもマスク越しでも伝わる笑顔を大切に過ごしていきたいように関わっていききたいと思っています。



でんしゃしゅつぱつしまーす!

新任の先生から

〇いちごクラス担任・新沼 弥英

〇今年度の抱負…いちごクラスの担任として子どもたちの成長に携われることを嬉しく思います。子どもたちと一緒に生活する中で私も自身も成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

ふたば会会長から

有意義な絵本時間

会長 赤石 愛(A葵)

「子供が寝たらやつと自分の時間ができる!」と、焦る気持ちで絵本を読み聞かせていた時期がありました。しかし、いつの日からか、読み聞かせの時間が自分にとつても必要な癒しの時間となっています。日常の言葉にできない思いが、絵本によって言語化、ストーリー化される事によって、「なるほど」と気づかされる事もあり、子供と一緒に読む絵本に、助けられる事も多いです。

また、コロナ禍で容易に遠くへ出かけられなくなった今、娘とは幸いな事に海の中や異国、時には人間のいない世界にまで絵本に連れていってもらっています。

小三になる長男が読む本を覗くと、鬼〇の刃や呪術〇〇の漫画本…。娘との絵本時間もあと少しなのかとしみじみます。残りの園生活を大切に、またふたば会の皆様とのご縁も大切に、交流できる機会がある事を願っております。一年間宜しくお願い致します!

編集後記

新緑がともきれいな季節となりました。お花を持ち寄った「花の日礼拝」が3年ぶりに行われました。お家の方と一緒にお花を選んだ子、自分でお花を選んだ子、一人一人の思いがお花に込められていたように感じました。当日は内丸教会の洋子牧師と一緒に礼拝をし「神様は子ども達一人一人を愛して下さっている」と話されました。持ち寄ったお花は日頃の感謝を花束にして牧師先生と給食さんにお渡ししました。

コロナ禍での保育も3年目を迎えました。感染対策を行ないながら、本来の保育活動が再開できることを祈りつつ、創設当初からのご家庭と園との協同でこれからも子ども達の成長を共に見守っていきたいと思います。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

〒020-0002

盛岡市中央通一六四七

TEL 六二二-二三〇一

理事長 坂本 洋